

事業の基礎情報

実施主体	三条市地域公共交通協議会
事業実施地域	三条市
共創の種類	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の種類	観光・まちづくり
共創パートナー	越後交通(株)、(株)JTB、(株)スノーピーク等下田地域の事業者
運行形態	貸切乗合バス、路線乗合バス
運行主体	越後交通(株)

取組の概要

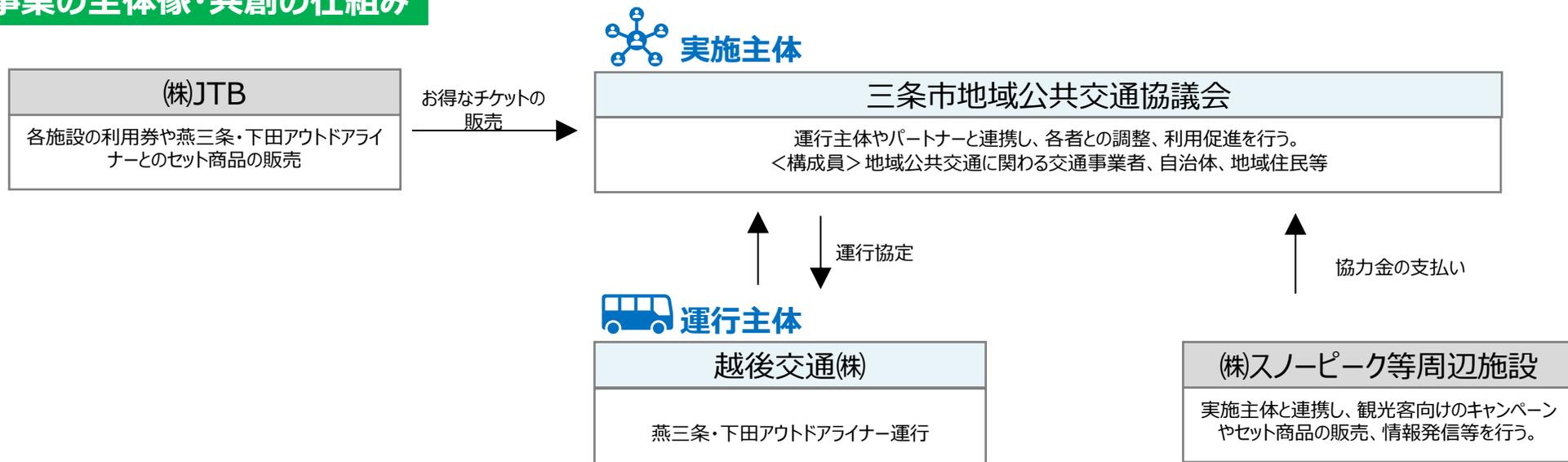
(現状の地域課題と事業目的)

下田地域では路線バスが走っているが、利用者の減少により運行本数が少なくなっており、公共交通の利便性が悪くなっている。また、令和4年度にはスノーピークの複合施設が開業し、下田地域への新たな移動手段を求める声も多くなっている。公共交通の利便性及び魅力を向上させることで、これまでの利用者に加えて、新たな利用者層も利用できるような地域公共交通体系を整備する。

(事業の概要)

令和5年10月から、燕三条駅、東三条駅と下田地域を結ぶ「燕三条・下田アウトドアライナー」の運行を開始した。現在は(株)スノーピークとの連携のみであるが、令和6年度から、下田地域の他施設や店舗等との連携を拡大し、バス路線の拡大や(株)JTBと連携したお得なチケットの販売や、停留所の増加により、地域住民の利便性の向上を図る。また、現在利用者数が平均7人/日であり、目標に達していないため、本補助事業により情報発信を強化し、利用者数を増加させることで、持続可能な公共交通体系を構築する。

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

複数の周辺施設と連携することで、JTBのスキームを利用した、施設の利用券や燕三条・下田アウトドアイナーの運賃をセットにしたお得な商品の販売や、宿泊施設や飲食店、道の駅等さまざまな施設を観光客に周遊してもらえるようなイベントやキャンペーンなどを行い、地域全体の観光客増加につなげる。

(実証事業により見込まれる効果)

- 公共交通の利便性及び魅力を向上させることで、市の理想の姿である「住み続けたいまち」になり、転出抑制につながる。
- 多くの観光客が訪れ、地域活性化につながる。
- 持続可能な公共交通体系を整備できる。

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

- 令和6年6月～：現在運行している「燕三条・下田アウトドアライナー」について、停留所の増加や運賃の改定等を行い、新たな実証運行を開始する。
これに伴い、地域住民には、アウトドアライナーを始めとしたあらゆる公共交通体系をまとめた「公共交通マップ」を作成し、地域住民の公共交通への意識啓発、情報発信を行う。
また、バスをアウトドアライナー仕様にラッピングすることで、観光客の利用増加及び住民への周知を図る。
- 令和6年10月～：既存の路線バスに統合し、越後交通の自主運行を目指す。周辺施設との連携を拡大し、現在の路線から各施設へ観光客を送迎できるような路線拡大や、各施設の利用券とバス運賃がセットになった商品の販売を行う。
利用促進のため、連携するアウトドア事業者からアウトドア用品を協力品としていただき、バスに展示することで、バスの魅力向上を図る。また、デジタルサイネージをバス待合所に整備し、住民や観光客に向けた情報発信を強化する。
- 令和7年2月28日：実績報告書提出

(補助事業実施後の予定)

事業を行う中で、既存の路線バスに統合し、越後交通の自主路線として運行することで、現在の貸切乗合バスから路線乗合バスに形態を変更し、運行に掛かる経費を抑える。連携した周辺施設から協力金をいただき、情報発信にも協力いただくことで、より多くの観光客から利用してもらい、路線バスの維持を図る。
減便等で利用者が減少してきているが、バスを整備することで、観光客だけでなく地域住民の移動手段の増加にもつながり、誰もが使いたいときに使える地域公共交通体系の整備を図ることができる。